

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援・放課後等デイサービス ともともびじょん					公表日	令和8年3月13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・ 体制・ 運営・ 整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	4		事前に評価して、支援に必要な教材ツールを用意している。情報を交換し、必要と思われるツールを次回に用意している	訪問支援の内容や対象児童に応じて、より適切な教材やツールの選定について引き続き検討していく		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		訪問支援の利用者は少ないので配置は適切である	今後希望者が増えた場合にも、適切な支援体制を維持できるよう、職員配置について継続して検討していく		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		業務改善のために必要な対応について協議していきます	職員全体での振り返りや意見交換の機会を継続し、支援内容の改善につながる取り組みを充実させる		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価を参考にしながら、面談などで意向を確認し、業務改善につなげています	保護者からの意見や要望をより把握できるよう、意見交換の機会や情報共有の方法について引き続き検討していく		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		協議時間を設けて、計画に組み込んだり、改善につなげている	職員間での意見共有をさらに促進し、業務改善に結びつく体制づくりを継続していく		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	現在は外部評価を行っていないが、内部でしっかり評価を行っている。第三者による評価は、今後の検討課題とする	第三者による評価の導入について、必要性や方法を合わせて今後検討していく		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		外部研修に参加したり、内部研修を設けて行っている	研修内容を日々の支援により活かせるよう、職員間での共有や振り返りの機会を充実させていく		
適切な 支援の 提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	4		アセスメント後は、学校・保護者との連携も意識し、支援内容を共有できるよう心がけている	アセスメント内容を支援に十分反映できるよう、継続的な見直しを行っていく		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		原案をもとに、職員で支援会議を行い、変化・課題を共有している	支援計画作成における職員間の共通理解をより深め、支援の方向性の統一を図っていく		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	4		担任の先生や支援員の方々から聞いた内容は、個別支援計画の中に反映し、支援内容に生かすように努めている	訪問施設との情報共有をさらに円滑におこなえるよう、連携方法の充実を図っていく		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		全職員が共通理解を持てるように、見える化として取り組みを進めていく	計画内容を職員全体でより共有できるよう、情報共有の方法について引き続き工夫していく		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		必要に応じて視覚検査を行い、感覚や眼球運動などの評価、指標を参考に客観的な視点も取り入れ、個別ファイルで見える化している	子どもの状況をより多面的に把握できるよう、評価方法の充実を図っていく		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	4		個別支援計画の中に訪問支援で行う内容を明記している	訪問支援の内容について、より具体的な支援方法の整理を進めていく		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員は計画を確認した上で情報を共有して支援を行っている	支援計画の内容をより確実に共有できるよう、職員間での確認体制を継続していく		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		事前に児童発達支援と支援内容の認識や、情報共有を行ったうえで訪問に挑んでいる	訪問前の打ち合わせをより充実させ、支援内容の役割分担の明確化を図っていく		
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		当日に振り返りを行い、できなかった時は、翌日に必ず、管理者・スタッフと振り返り、情報共有をしている	振り返りの機会を生かし、支援内容の改善につながる情報共有を継続していく			
17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	4		訪問先の理念や意向を理解し、授業や保育の妨げにならないように声のかけ方や立ち位置など配慮している	訪問先の環境や方針を踏まえた支援をより充実させるため、連携の強化を図っていく			

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	4	毎回記録を徹底し、支援の検証と改善につなげている	記録内容の支援の改善により活用できるよう、記録方法の見直しを行っていく
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	訪問先とはその都度情報を共有し、保護者とは定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている	モニタリングの内容をより支援計画に反映できるよう、評価の精度向上を図っていく
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	児発管・児童に関わっている指導員が参加している	関係機関との連携をより円滑に行えるよう、情報共有の方法を継続して検討していく
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	子どもの生活全体を支える支援につながるよう、連携体制を整えていきたい	地域の関係機関との連携をさらに深め、子どもの生活全体を支える支援体制の充実を図っていく
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	進級時には、事前に保護者、学校等、予定を調整し、連携の機会を確保するようにしている	就学時の引き継ぎが円滑に行えるよう、情報共有の方法について引き続き検討していく
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	支援の質の向上を図るために、心理士や、教育に関わる専門家などに相談を行いながら、支援内容の見直しや助言を行っている	専門家からの助言をより支援に活かせるよう、連携機会の充実を図っていく
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	4	地域イベント、虐待防止活動等を中心に活動している	地域との関わりをさらに広げ、情報交換の機会を増やしていく
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	連絡帳や送迎の際の会話で進行状況や、悩み不安を話しやすい環境にしている	保護者との情報共有をより丁寧に行い、子どもの状況理解を深められるよう努めていく
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	保護者会や学習会(ペアレントトレーニング)を設け、保護者同士が交流できる場を設けている	家族支援の取り組みについて、保護者のニーズに応じた内容の充実を図っていく
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	丁寧に説明するように心がけている	利用者がより理解しやすい説明方法について、引き続き工夫していく
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4	適切な説明を心掛けている	訪問施設との情報共有をより丁寧に行い、支援内容の理解を深めていく
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	訪問先との信頼関係を築き、保護者とも家庭での困り事など聞き取る機会を設けている	保護者や子どもの意向をより反映できるよう、意見を確認する機会を増やしていく
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4	計画を説明する際には対面で説明し、同意を得ている	支援計画の内容について、より分かりやすい説明を心がけていく
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	いつでも相談、面談、助言を行えるようにオフィシャルのLINEや様々な方法で相談しやすい環境づくりを心がけている	相談しやすい環境づくりを継続し、保護者支援の充実を図っていく
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	定期的に保護者会を行っている	保護者会も開催し、保護者同士の交流も設けていることをさらに周知していく
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	保護者に対しては、ご希望にこたえられる体制を整えている。子どもに対しては、常に相談しやすいようにしている	保護者がより相談しやすい環境づくりを意識し、意見や要望を早期に把握できるよう、引き続き体制の周知と対応の充実を図っていく
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	対面での情報発信やコミュニケーションが確保できている	引き続き、活動内容や取り組みについて、わかりやすい情報発信を行っていく
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	個人情報の取り扱いには、常に十分な注意を払っている。	今後もより一層、安心して利用いただける環境づくりを進めていきたい
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	意志の疎通が行える支援方法を個々に合わせて行っている	子どもや保護者への配慮ある対応を心がけ、安心して利用できる環境づくりを行っていく
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4	必要に応じて、視覚(ビジョントレーニング)や感覚の視点など、専門性に基づいた情報共有や、教材の紹介などを行い、支援の幅を広げる助言も行っている	引き続き、わかりやすい説明を心がけ、今後も理解しやすい助言や現場で取り入れやすい支援となるよう努めます

訪問先施設への説明等	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4		支援終了後に情報共有の時間を持っている	今後も情報共有や意見交換の場を大切にし、安心して支援を受けていただけるよう努めます
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4		子どもの反応の変化、先生の意見などを含めて、家庭での対応に活かせるような形で伝えることを心がけている	子どもの様子や支援内容について家庭での対応にも活かせるよう、わかりやすい情報共有の方法を引き続き工夫していく
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取り扱いには、常に十分配慮しており、保護者の理解、安心感の確保を大切にしている	今後もより一層、安心して利用いただける環境づくりを進めていきたい
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4		ビジョントレーニング・感覚統合・行動理解など、専門的な視点からの助言を行い、教育現場で活かせる支援方法を提案するよう努めている	専門的な視点から、分かりやすい説明を心がけ、今後も理解しやすい助言や情報共有を行うとともに、訪問先施設と信頼関係を築いていく
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		放課後デイサービスの合同体制で、各マニュアルを整備し行っている	防災に対する意識を高めながら安全管理に配慮した上で訓練を行うとともに、保護者への周知方法についても検討していく
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		訪問先の環境に応じた個別の安全確認リストなど、今後整理していく必要がある	安全管理に関する取り組みを継続するとともに、職員間での情報共有を行いながら事故防止に努めていく
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		訪問支援の場合にも対応できるよう、共有方法を検討していきたい	ヒヤリハットの共有を継続し、再発防止につながる取り組みを行っていく
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		外部研修に参加したり、内部研修を行い、職員全体で共通理解が持てるよう努めている	虐待防止に関する研修や、職員間での意識共有を継続し行っていく
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		子どもの安全と尊厳を守る支援体制を重視し対応している	引き続き、身体拘束に関する基本的な考え方を職員間で確認しながら、適切な対応に努めていく